

# 平成 18 年漁期 イカナゴ(シンコ) 漁況予報

平成 18 年 2 月 16 日  
香川県水産試験場

## 1 気象・海象

### (1) 水温(図 1)

今期の屋島(備讃瀬戸)の水温は、11月までは平年並みで推移したが、12月に入ると寒波によって平年よりかなり低めで推移した。1月以降も平年よりやや低い状態が続いたが、2月上旬には平年並みとなった。気象予報によれば四国の今後1ヶ月の気温は平年並みあるいは高めで推移すると予測されており、今後の水温も平年並みで推移すると予想される。

なお、イカナゴの産卵盛期の水温とされる14~12℃になったのは、平成17年12月6日~平成17年12月13日で、平年(12月10日頃~12月25日頃)より1週間程度早く、また水温の急激な低下によりその期間も短かった。

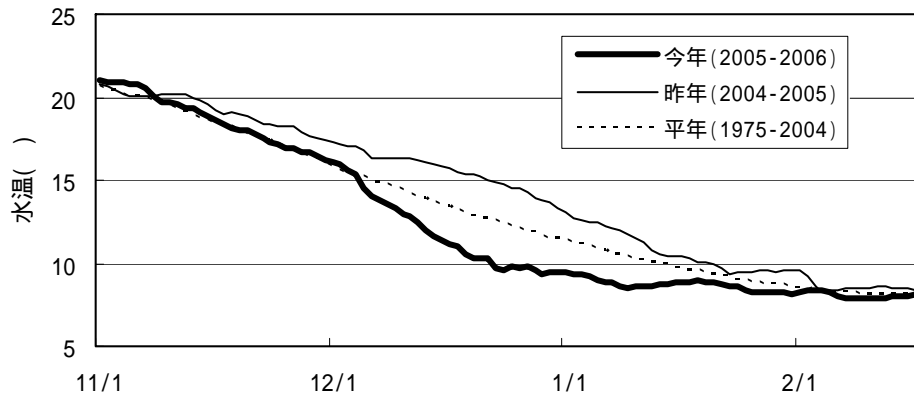


図1 水温変化(屋島湾水深1m)

### (2) 季節風(図 2)

季節風(特に西風成分)の強弱は、備讃瀬戸から播磨灘に運ばれるイカナゴ稚仔魚の量を左右し、風の強い方が分散が良く、生残が良くなる傾向がある。2005年12月の平均風速(3.8m/s)は前年(2.2m/s)および平年(2.6m/s)を上回った。1月の平均風速(2.4m/s)は昨年(3.0m/s)を下回ったものの平年(2.9m/s)並みであった。2月上旬の平均風速(3.9m/s)は昨年(3.5m/s)をやや上回った。

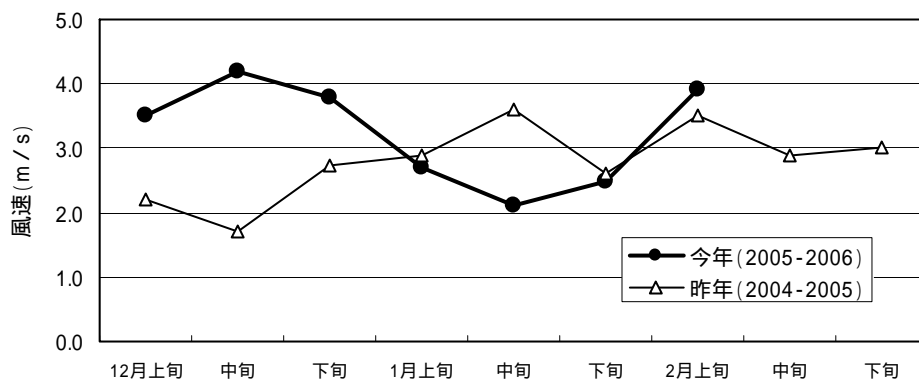


図2 日平均風速の推移(高松気象台資料)

## 2 産卵量および産卵期

兵庫県水産技術センターが実施した播磨灘鹿ノ瀬海域での産卵親魚調査結果では、同海域での総産卵量は昨期の調査結果を1とすると今期は約5.9で比較的多く、また親魚の成熟状況から今期の産卵盛期は12月20～25日頃（昨期よりも早い）と推定されている。

## 3 稚仔魚の出現状況（図3、図4、図5）

今期も備讃瀬戸および播磨灘の23の調査地点で、丸特Bネット（口径45cm）の鉛直曳きによりイカナゴ稚仔の採集調査を、1月前半（6日、10日）、1月後半（20日、27日）および2月前半（1日、2日）の3回実施した。

なお、備讃瀬戸および播磨灘の各々1調査地点は過去の蓄積データが少ないため、稚仔数の評価については、残り21調査地点（備讃瀬戸14点、播磨灘7点）を対象に行った。

### (1) 1月前半調査

備讃瀬戸での稚仔魚の採集数は181尾で、昨年（0尾）および平年（1981～2005年の平均65尾）を上回った。採集された稚仔魚の平均全長は4.3mmであった。

播磨灘での稚仔魚の採集数は20尾で、昨年（4尾）および平年（17尾）を上回った。採集された稚仔魚の平均全長は5.2mmであった。

稚仔魚は主に備讃瀬戸東部海域で採集された。

### (2) 1月後半調査

備讃瀬戸での稚仔魚の採集数は260尾で、昨年（94尾）および平年（2001～2005年の平均36尾）を大きく上回った。採集された稚仔魚の平均全長は4.9mmであった。

播磨灘での稚仔魚の採集数は138尾で、昨年（84尾）および平年（39尾）を大きく上回った。採集された稚仔魚の平均全長は6.5mmであった。

稚仔魚は備讃瀬戸中央部海域から播磨灘南西部海域の広範囲で採集された。

### (3) 2月前半調査

備讃瀬戸での稚仔魚の採集数は21尾で、昨年（1尾）の採集尾数は上回ったものの平年（1981～2005年の平均33尾）は下回った。採集された稚仔魚の平均全長は6.7mmであった。

播磨灘での稚仔魚の採集数は100尾で、昨年（16尾）および平年（21尾）を大きく上回った。採集された稚仔魚の平均全長は8.0mmであった。

稚仔魚は主に播磨灘南西部海域で採集された。

各調査での採集された稚仔の全長組成を昨年と比較すると、昨年よりも大型サイズの稚仔が採集されており、このことから今期の産卵盛期が昨期よりも早かったことが推定される。

## 4 2月上旬までのイカナゴ（親魚）の漁獲状況

高松 1月15日から込網漁を開始した。2月5日までの漁獲量は194トン（延べ69隻）、1日1隻あたりの漁獲量は2.8トンで、平成3年以降では最も多い漁獲となっている。昨年同期と比べると、漁獲量は20倍、1日1隻あたりの漁獲量は4.7倍で、かなり上回っている。

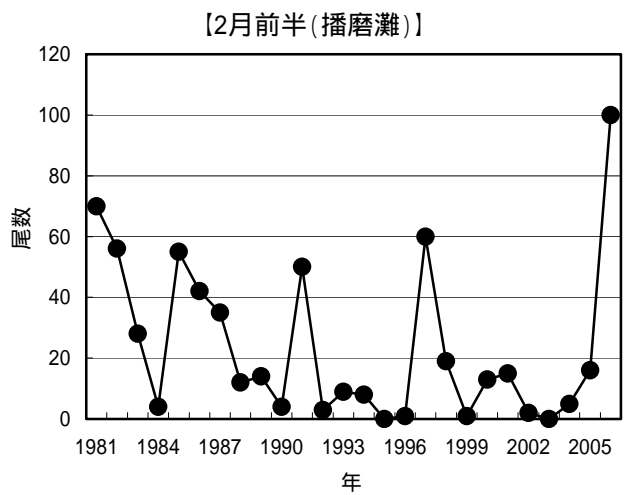
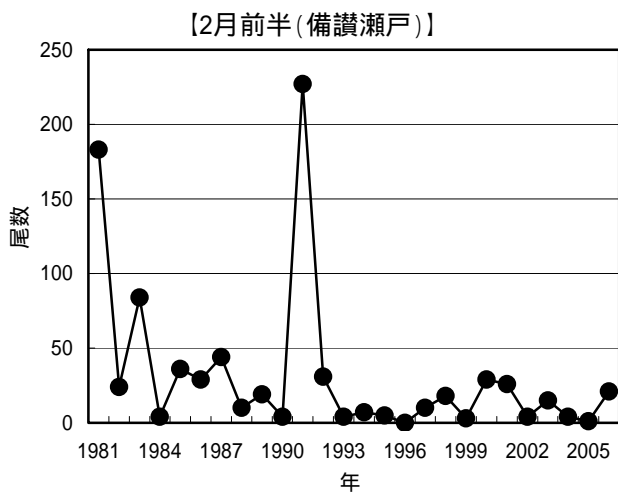
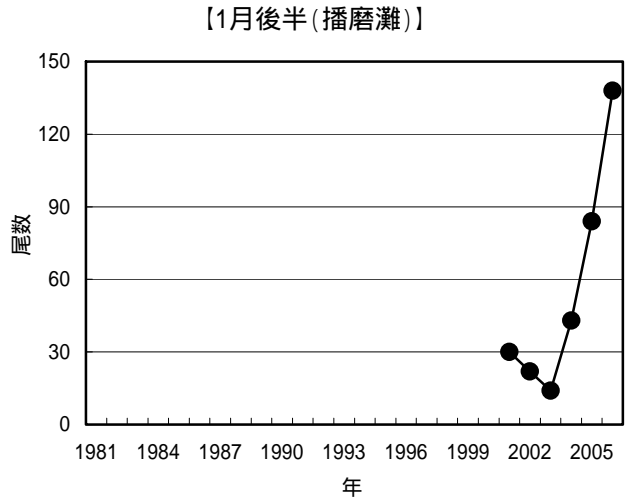
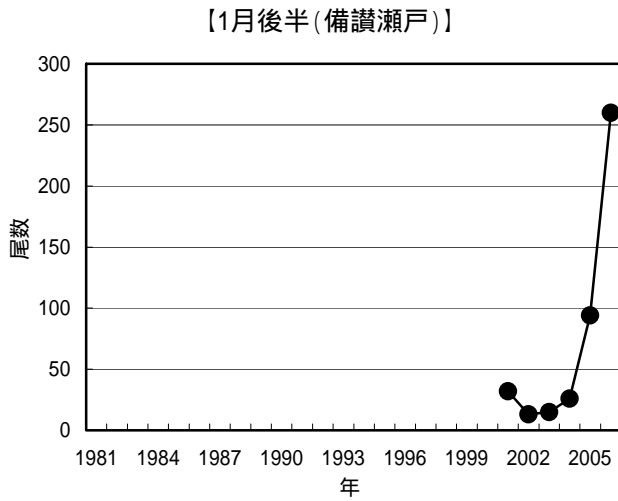
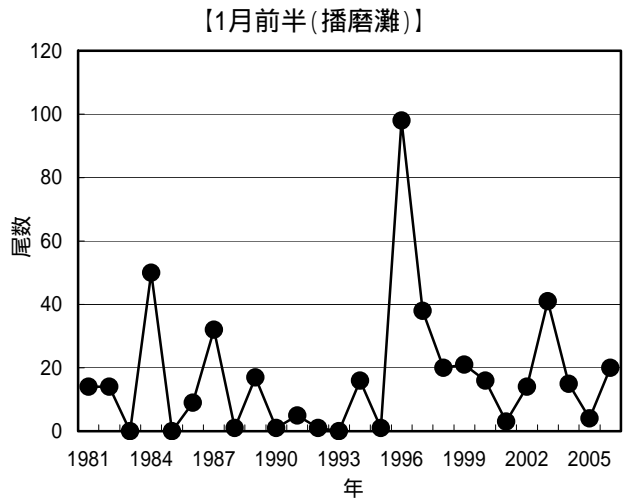
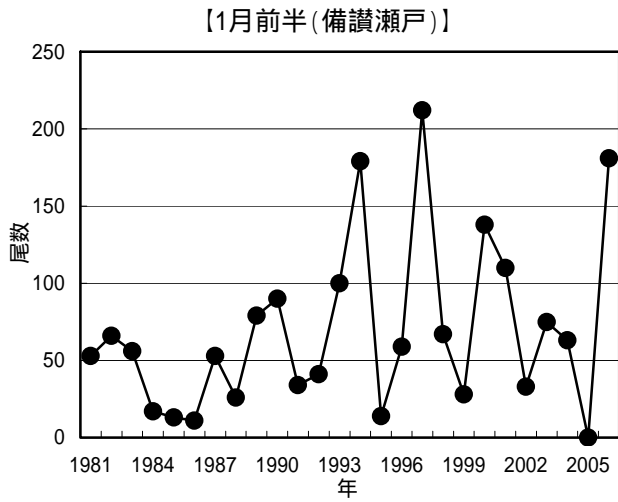
なお、1月27日に入手したイカナゴ標本の平均全長は94.0mmで、1歳魚が中心である（昨年は2歳魚が中心であった）。

庵治 2月10日から込網漁を開始した。

## 5 シンコ漁の予測

今期は気象・海象の面では好条件であり、また稚仔魚の採集数も昨年を上回りその分布状況も比較的良好である。以上のことから、本年のシンコ漁獲量は、平年（H3～H16）を上回り良好であった昨年並あるいは昨年をやや上回るであろうと予測される。





備讃瀬戸:調査点14点の合計  
播磨灘:調査点7点の合計

図4 イカナゴ稚仔採集尾数の推移(丸特Bネットによる鉛直曳)

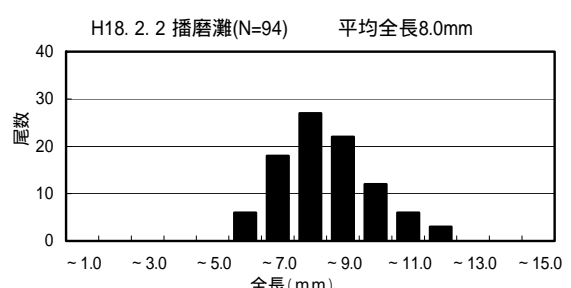
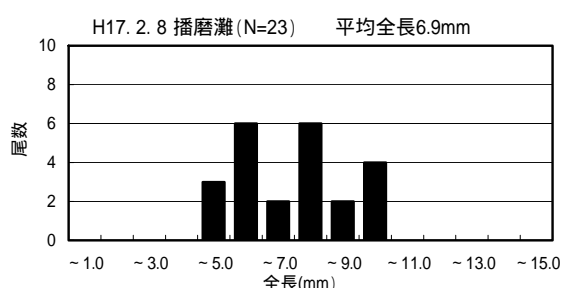
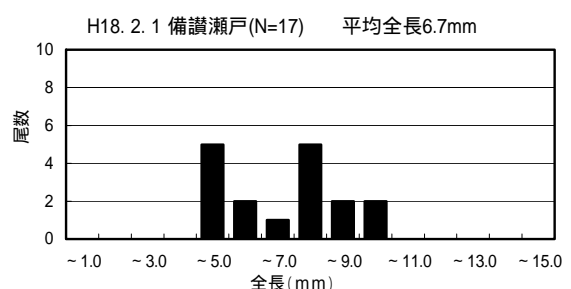
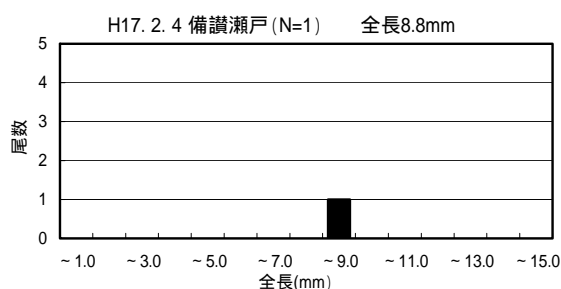
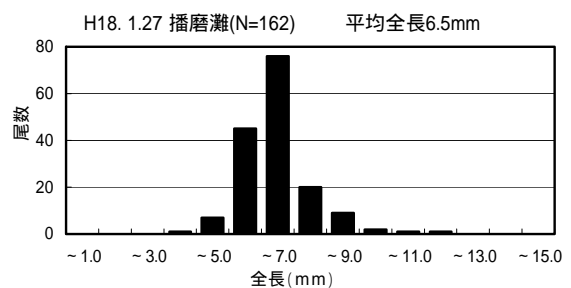
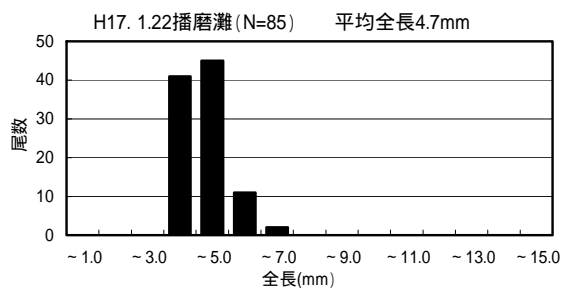
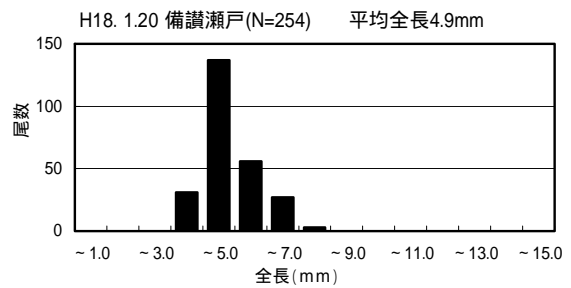
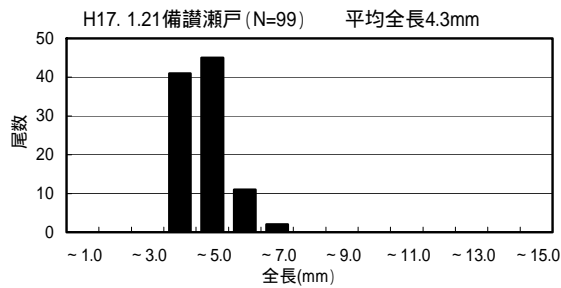
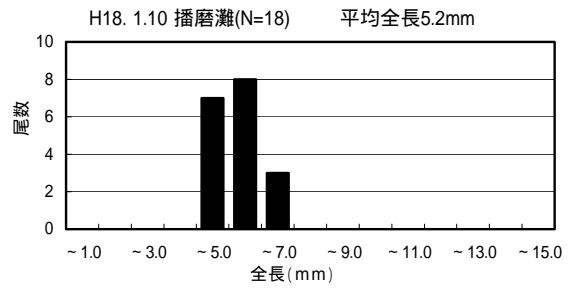
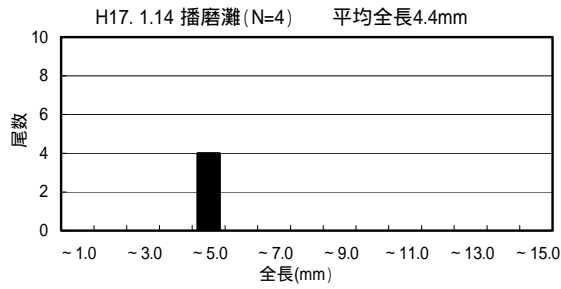
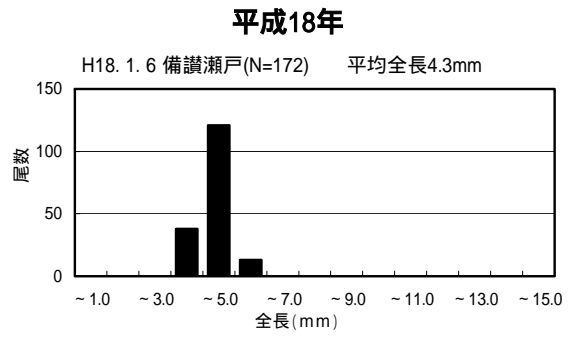
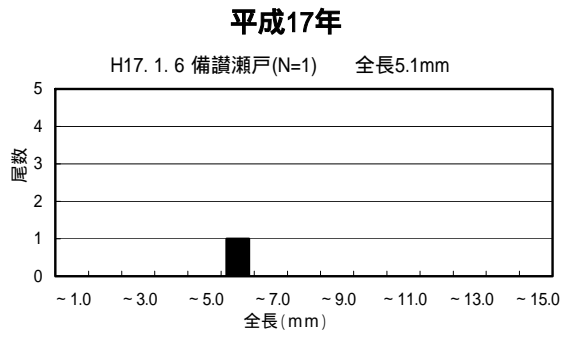


図5 イカナゴ全長組成